

砂防ボランティア通信

特定非営利活動法人大阪府砂防ボランティア協会

大江新理事長の挨拶
丸山前理事長の退任挨拶
24年度通常総会を開催
23年度の活動概要報告
地域調整委員会活動
危険斜面等の緊急診断
研修会・講習会
砂防トピック (大阪府)
協会トピック

☆ 新理事長あいさつ

大江 徹



このたび会員各位のご推挙により、NPO法人大阪府砂防ボランティア協会の理事長に就任致しました。一言ご挨拶を申し上げます。

昨年は新燃岳の噴火や東北大地震そして津波、さらに台風12号等の記録的な土砂災害がありました。被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに復旧にたずさわられた方々の大変なご苦勞に対し深く敬意を表します。このように繰り返され発生する土砂災害に対して「減災」という観点から、我々ボランティアが使命としている啓発活動や避難訓練に対して、地域社会からのニーズがより高まっている状況であると認識しております。

さて当協会は平成8年度に設立され、その後平成15年度にNPO法人化されました。昨年度には15周年を迎え、今までの活動や先輩方のご苦勞を記録して「土砂災害から命を守ろう」と題して15年の歩みがとりまとめました。編集委員の一員として諸先輩の過去の様々な取り組みやご苦勞を知り、これからの協会運営に是非活用して参りたいと思います。

しかし、当協会を取り巻く環境はここ数年で激変しております。まず構成会員の高齢化が進み、実際の活動に参加できる実働人員が減少しております。大阪府のOBだけではなく市町村職員・OBの方、その他砂防に関心のある幅広い方々にも当協会への入会と積極的な活動への参加をお願いしていかねばならないと考えております。また、一般の方々に対し、協会の通常の土砂災害対策活動に加え、PRに力を入れ、協会の力を今以上に活用していただくなどによりニーズに応えて参りたいと思います。

協会が充実した活動を継続、発展していくためには大阪府、府下市町村との連携、協力を基礎として理事をはじめ会員の皆様の積極的なご協力が不可欠であります。協会運営には多くの課題はございますが、微力ながら一生懸命取り組んでまいりますので皆様のご支援をどうぞよろしくお願い致します。

協会が充実した活動を継続、発展していくためには大阪府、府下市町村との連携、協力を基礎として理事をはじめ会員の皆様の積極的なご協力が不可欠であります。協会運営には多くの課題はございますが、微力ながら一生懸命取り組んでまいりますので皆様のご支援をどうぞよろしくお願い致します。

☆ 前理事長退任あいさつ

丸山 明

平成22年度から2年間理事長を勤めさせていただきました。23年度に大阪府砂防ボランティア協会発足15年目の記念誌を発行することになり、過去の歩みを紐解いてみました。われわれの知らなかった先輩方のご苦勞を知り、改めてこの組織を着実に守り育ててゆくことの大切さを認識しました。また、この年の3月には「東北地方太平洋沖地震」の津波により東日本が、9月には台風12号による豪雨で奈良・和歌山で、歴史に残るような災害が相次いで発生した年でありました。多くの命が失われました。これらの災害で生死の境を分けたのは「防災意識」であり「避難訓練」であったと言われております。われわれの活動は土砂災害防止のためのソフト対策すなわち危険箇所の調査・点検そして地域の皆様への啓発活動であり、このたびの災害によりその重要性を再認識しました。

この2年間に576箇所と480箇所の危険箇所調査を実施する一方、市役所、学校、自治会での災害対策訓練や出前講座・ワークショップへの参加も年々増え、且つ会員のスキルアップのために講習会・研修会を精力的に実施してきました。この実績は今後の活動のための基礎となります。また本年3月には新たな場所に事務局を移転しました。これらの行動をスムーズに行えたのは理事をはじめ会員および関係機関の皆様の多大な協力とご支援によるものと深く感謝しております。協会の課題として、運営資金の継続的な確保や新規会員の確保など難題を抱えておりますが、毎年繰り返し発生する土砂災害から命を守るために、砂防ボランティア協会への周囲の期待と関心は高まっております。大江理事長始め理事の皆さまよろしくお願ひいたします。

今後の協会の益々の発展を祈念して理事長退任の挨拶とさせていただきます。

☆ 平成24年度通常総会を開催

5月18日(金)、この3月に移転した事務所に隣接する「エル大阪」で通常総会を開催し、平成23年度事業報告・決算報告を承認、平成24年度事業計画・予算を審議し決定しました。

役員改選に伴う新体制は以下のとおりです。

執行体制

理事長	大江 徹					
副理事長	藤本光大			井上 整		
理 事	吉村 滋（総務） 若菜邦雄（広報） 東郷 茂（財務） 中田 智（企画） 上畑憲光（受託事業） 下清水則男（地域調整）					
監 事	川崎茂晴			平井俊郎		
ブロック長	（池田）上畑憲光 （茨木）東郷 茂 （枚方）下清水則男					
	（八尾）川口恵司 （富田林）吉田勝義 （鳳）田中拓夫 （岸和田）阿部捷歳					



福井大阪府ダム砂防課長のご挨拶



通常総会の審議状況

また、総会終了後には平成24年度第1回の会員研修会を開催しました。

☆ 平成23年度 活動概要の報告

地域調整委員会活動

土砂災害から府民の命を守るため、大阪府や市町村と連携して土砂災害防止のための点検調査や防災意識の向上・啓発に努めました。

土砂災害危険箇所の「パトロール」・「緊急点検」等(20回35人)、行政や地域住民等を対象とした「出前講座」(5回12人)、住民と一緒に「地区単位のハザードマップの作成」(7回13人)等、会員の啓発活動は32回、延べ参加人員60名となりました。

また、会員を対象に効果的な啓発活動を行うため「地域活動のスキルUP研修会」を実施し、その後の出前講座等において大いに役立ち、その効果も十分に発揮できたと考えております。

会員の積極的なボランティア活動は府民からも好意的に受け止められており、所期の目標を達することができたと思っております。



ハザードマップ作成のWS
(河内長野市天美地区)



清掃活動(八尾市黒谷地区市民の森)



出前講座(千早赤坂村中津原地区)

危険斜面等の緊急診断

平成23年度調査は、前年につづき箇所数も多く、秋から年明けにわたり長期に及ぶものであり、担当した会員、調査員相互の緊密な連携、各自の健康管理などが必要であり、予定通りの工期で終了できたことは大きな実績になったと思われます。

1. 平成23年度 調査概要

調査箇所数： 大阪府下480箇所（能勢町から岬町に亘る急傾斜地崩壊危険箇所※）

調査期間： 平成23年9月20日～平成24年2月29日

調査会員： 32名 延 160人日

雇用調査員： 15名 延1080人日

※急傾斜地崩壊危険箇所： 傾斜度30度以上、高さ5m以上の急傾斜地で、人家(官公署、学校、病院等の公共的な施設のある場所を含む)に被害を及ぼすおそれがある場所です。

2. 調査実績 （Ⅰ：人家5戸以上 Ⅱ：人家1～4戸 Ⅲ人家なし）

危険箇所 ランク	府下全体	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	合計
Ⅰ	896	360	359	128	—	—	—	77	174	236	39	1,334
Ⅱ	1,115	—	—	162	201	250	102	23	—	340	441	1,078
Ⅲ	346	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

3. 調査にあたって

この調査により、斜面判定士として貴重な経験を積めるとともに、府民と直接話をする事で土砂災害啓発活動ができたことは、当協会及び会員にとって大変有意義なものであります。今後も頑張って調査を受注していきたいと思います。会員の皆様のご協力をお願いいたします。



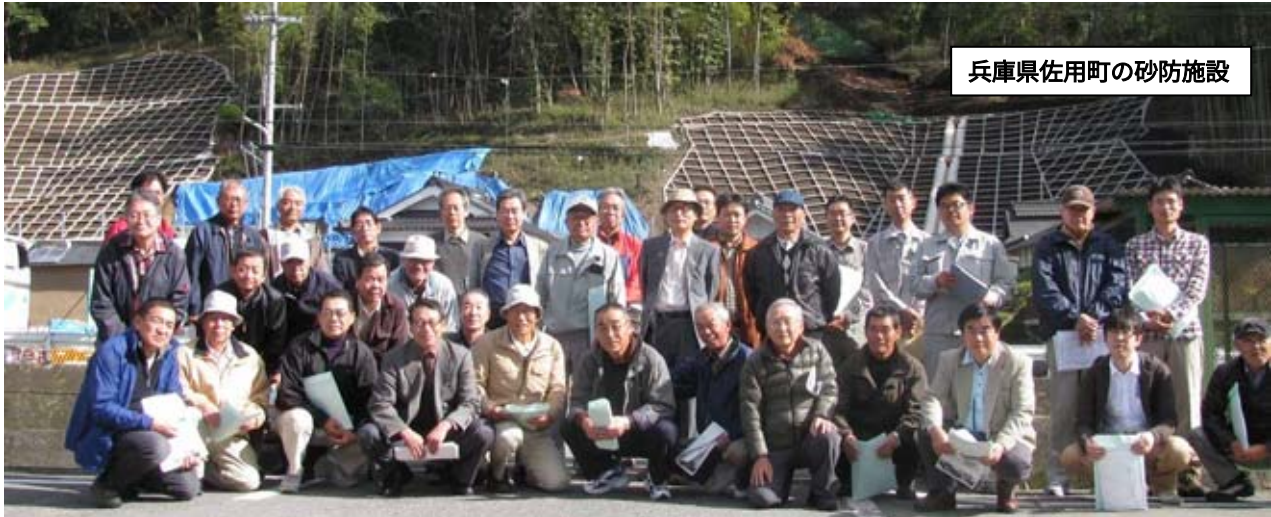
斜面状況の説明と早めの避難を啓発



斜面状況の調査

1. 砂防施設見学会

平成23年11月16日(水)、会員27名・大阪府関係者7名 計34名の参加をえて、兵庫県佐用町の砂防施設見学会を開催しました。平成21年8月の9号台風では佐用町で最大24時間雨量327mm、1時間雨量89mmの豪雨による土砂災害と住民が避難途中での流出被害など死者18名・行方不明者2名など甚大な被害がありました。急傾斜地崩壊対策事業(急)大向地区、砂防激甚災害特別緊急事業(砂)安井谷川、災害関連緊急治山事業・上石井、災害関連緊急砂防事業(砂)東谷川、および災害関連事業(二)幕山川を訪れ、災害復旧状況と避難の在り方について研修しました。



今回、意義ある研修の実施と会員相互の親睦を図ることができたことに対し、会員各位の御協力並びにお世話になった兵庫県・大阪府の担当者の方々に心よりお礼を申し上げます。

2. 砂防研修会

- (1) 平成23年5月18日、「通常総会」に引き続き、会員研修会を開催しました。

「平成22年度土砂災害」

講師 大阪府河川室 吉川泰司氏

「東日本大震災・津波災害と大阪府の取り組み」

講師 大阪府危機管理室 看舎邦亮氏

- (2) 平成23年12月17日 土砂災害に関する講習会

(京都市・近畿2府4県の砂防ボランティア協会共催)

- (3) 平成24年2月8日「水害・土砂災害に関する防災講演会」を大阪府砂防協会・河川協会と共同で開催しました。

「台風12号の災害と対応状況」

講師 国土交通省近畿整備局 小山下英文氏

「地域防災力の向上」

講師 山口大学大学院准教授 瀧本浩一氏

- (4) 平成24年5月18日、「通常総会」に引き続き、会員研修会を開催しました。

「土砂災害とボランティア活動について」

講師 京都府立大学教授 松村和樹氏

「平成23年度 土砂災害について」

講師 大阪府河川室 井上洋之氏



瀧本准教授の講演



松村教授の講演

砂防トピック

ー大阪府都市整備部河川室ダム砂防課ー

- ◎ 防災情報は「大阪防災ネット」で**検索**

URL ⇒ <http://www-cds.osaka-bousai.net/pref/index.html>

- ◎ 土砂災害防災情報は「土砂災害の防災情報」で**検索**

URL ⇒ <http://www-cds.osaka-bousai.net/sabou/Index.html>

- ◎ 市町村ごとの「大雨・洪水警報などの気象情報」、「台風、地震・津波情報」、「災害時の避難勧告・避難指示」、「土砂災害警戒情報」等を**携帯電話メール**で配信しています。

受信するには下記アドレスに空メールを送信

メールアドレス ⇒ touroku@osaka-bousai.net

- ◎ 昨年度、大阪府砂防ボランティア協会にご協力をいただき、2市3地区で地域住民とのワークショップ形式による地域版ハザードマップを作成しました。本年6月の土砂災害防止月間に河内長野市天見地区では**作成した地域版ハザードマップを活用した防災訓練の実施**をしました。今年度も地域版ハザードマップを作成する予定です。引き続き、大阪府砂防ボランティア協会様のご協力よろしくお願いいたします。

携帯の登録メールの
QRコードはこちら



☆ 楽しく生き生きとした砂防ボランティア活動のために――ある役員の声

近年府庁からの斜面地調査の発注方式が変更されたため、予算確保の面から専従事務員の雇用が続けられなくなった。また、従前のように多くの新規入会会員の確保も期待できない中で、長期にわたり役員を務めなければならないなど当協会の役員人事・運営面でしんどい・厳しい状況になっている。そのような中、頑張っている各役員の貢献が今日の当協会活動の原動力になっていることを理解してほしい。

しかし、いつまでこのまま続けられるのか。役員個人にとっても経済的収入の減少、時間の制限（むしろ余裕がでる？）、家庭の事情、体力の衰えなどのマイナス面の事情が多くなるのである。もう辞めたいと弱音を吐きたい気持ちになるのもよくわかる。

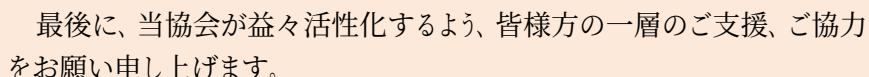
だが、後ろ向きなことばかり考えても有意義ではない。これまで活動をやってきた意味・意義や楽しいことなどプラス面をいまこそ考えてみるのが大事だと思う。

- ① 長年の技術・経験・スキルを生かして社会に恩返しができる。
- ② 砂防行政を担ってきた先輩として、現役の後輩に応援ができる。
- ③ 共に活動を支えてきた会員との交流を通じて友情・尊敬・連帯・達成感を持てるし、特に楽しい懇親ができる。
- ④ NPO 法人を創り、発展させてきた自負と継続させていく責任を感じることができる。
- ⑤ 常に社会との強いつながりの意識を持つことができる。
- ⑥ 協会本来の目的「危険地に住む人の命の安全確保」に寄与できる。

などなど

他にも個人にとって意義の中身はあるだろうと思う。昨年大阪府砂防ボランティア協会が設立15周年を迎えることができたのは大変喜ばしいことだ。今後も継続発展させるためには、この協会を支える会員と役員が力を合わせて頑張っていくことが最重要である。そのため今一度、自分にとってボランティア活動の位置づけを見つめ、上記のプラス面等を再確認してほしい。

会員と役員が力を合わせて、砂防ボランティア活動を通じ、世のため、人のため、自分のため、楽しく生き生きとした人生をできるだけ続けていければ大変幸せと考える。



- 6 -